

報 告

移動機器フェスティバル

神奈川県総合リハビリテーションセンター研究部 村田 知之

1. はじめに

近年、福祉の枠組みを超えた様々なモビリティの開発・市販化が進む中、神奈川県総合リハビリテーションセンター研究部リハビリテーション工学研究室では、企業や利用者と協力し、福祉・移動機器の開発や評価をおこなっている。これらは、福祉機器の展示会やテレビなど、多くの場で紹介されているが、実際に試すことができる機会は限られている。そこで今回、最新の移動機器の情報を集めた展示コーナーと当センターの活動を広く知つてもらうために、歩行分析や模擬義足の体験コーナーなどの場所づくりを目的とした「移動機器フェスティバル」を2012年6月9日(土)に開催した。その際、自治会などに協力を得て近隣地域にも広報をすることで、地域密着型となるイベントとした。

なお、本フェスティバル(写真1)を開催するにあたり23の企業・団体に協力いただいた。



写真1 移動機器フェスティバルのポスター

神奈川県総合リハビリテーションセンター研究部
〒243-0121 神奈川県厚木市七沢 516

2. 展示コーナーと体験コーナー

展示コーナーは、WHILL(電動駆動ユニット)やWCV(車椅子で乗車可能なモーターバークル)など近・中距離での移動を目的としたパーソナルモビリティだけでなく、小児や高齢者など対象者の身体状況や使用目的に合わせた多種類の車椅子と福祉車両、競技用車椅子、そして当センターが開発に携わったチェアスキー(バンクーバーモデル)やスタンダードアップ車いす、6輪車いす、チェアスキーの体験ができるNintendo Wiiなど総数60種類を超える機器の展示を行った(写真2、写真3)。



写真2 展示機器の説明①



写真3 展示機器の説明②

体験コーナーは、当センターの義肢装具土立会いのもと、模擬大腿義足や模擬下腿義足の体験と、診療や研究目的で活用されている三次元動作分析装置を用いた歩行分析の体験、そしてチェアスキーを体験できるNintendo Wiiや座圧分布計測装置の体験を設けた（写真4、写真5、写真6）。



写真4 歩行分析の体験



写真5 模擬義足の体験



写真6 チェアスキーの体験

3. 参加者

当日は天気に恵まれず終日雨であった。しかし北は新潟、南は佐賀からと日本各地からの参加があり、

受付の記帳者数だけで132名（県内88名、県外33名）で10代未満～70代までの幅広い年齢層の参加者に来場いただいた（図1）。

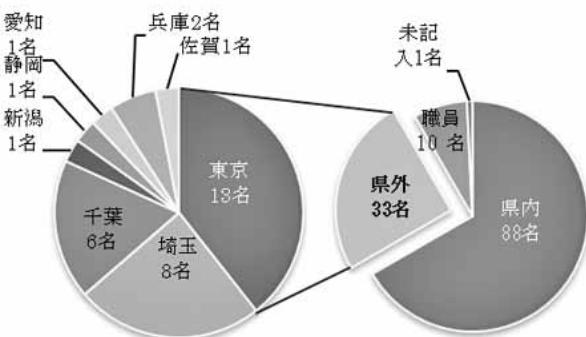


図1 参加者の内訳 (n=132名)

4. おわりに

今回、本フェスティバルを開催するにあたり神奈川県総合リハビリテーション事業団内の神奈川リハビリテーション病院や七沢リハビリテーション病院脳血管センター、更生ホーム、地域支援センターによる広報のみならず、近隣自治会の協力によって公民館や町内会の掲示板等へ掲示をおこなった。また、協力企業・団体による広報もあり、準備期間が短いながら、雨天にもかかわらず参加してくださった多くの方々に移動機器の情報を伝えることができた。また、近隣の参加者へは当センターのことをより知っていただく機会となった。参加者の中には、当センター内の神奈川リハビリテーション病院入院患者や更生ホーム入所者、療育園入所者も多数おり、普段の生活や訓練では乗りたくても乗る機会がなかった競技用車椅子や自分が利用しているものとは別の車椅子等を我先にと乗り比べていた。また、子どもたちはそれぞれが乗りやすい車椅子を選択し、おもちゃの様に遊びながら乗りこなしていた光景もあった。

協力企業・団体、多くのスタッフの協力を得てさまざまな機器を試すことができる場とした本フェスティバルでは、車椅子利用者やその家族には様々な道具を通じて、活動の可能性を伝えることができ、スタッフにとって多くの気づきを得る機会だったと感じた。

そして、来年以降も各企業・団体の協力のもと、福祉用具や移動機器などの情報を伝えるための場として今後も車椅子利用者やその家族、地域に発信していきたい。